

研究結果報告書

戦後日・韓の〈戦争文学全集〉の比較研究

所属：韓国外国語大学 日本語大学 所属

役職：非常勤講師

氏名：張智映

本研究の目的は、戦後に出版された日本と韓国の〈戦争文学全集〉を比較することである。特に全集がどのように構成されているか、また、刊行当時の社会相と全集の構成及び収録作品はどのような関係を持っているかという点に注目した。

研究対象は次のとおりである。

〈日本〉 『昭和戦争文学全集(15巻・別巻)』(集英社, 1964-65)

『戦争文学全集(6巻・別巻)』(毎日新聞社, 1971-72)

『コレクション 戦争×文学 (20巻・別巻)』(集英社, 2011-13)

〈韓国〉 『韓国戦争文学全集』(徽文出版社, 1969)

『世界大戦争文学全集(10巻)』(동화문화사, 1975)

全集の黄金期である1960年代に出版された『昭和戦争文学全集』は、戦争後抑留された人たちの復員や引揚げのことを扱っている12巻を除くと、満洲事變が勃発した1931年から日本が敗戦した1945年8月15日までのことを中国(1~3)と東南アジア(4~6)を中心にして、地域別に扱ったり、戦争に参加した形態〈戦闘員(7・8・10)・非戦闘員(9・13・14)〉-人物を中心にして構成されている。『戦争文学全集』は、小説を中心に、作品を発表時期別に分けて構成している。『昭和戦争文学全集』と異なる点は、タイトルが示しているように明治・大正期の作品をも収録している点である。小説以外の戯曲・詩・日記などは別巻に収録した。『コレクション戦争×文学』は、以前に出版された二つの全集とは構成から差が見られる。アジア太平洋戦争だけでなく、韓国戦争・ベトナム戦争など、最近の戦争を扱った作品も含めて、これを戦争別(近代編・現代編)、主題別(テーマ編・地域編)に分けている。また、女性や子供、被植民地などマイノリティに注目している点と、戦争文学を広義に捉えて、様々な素材やジャンルの作品を収録している点、また、日本人作家の作品だけでなく、日本語の作品までを含ませている。

韓国の場合、〈戦争文学全集〉の刊行は日本と同じく1960-70年代の全集刊行のブームと関係があると思われる。ところで、『世界大戦争文学全集』の場合、戦争を扱った文学作品ではなく、アジア太平洋戦争からベトナム戦争までを、時間順に記録した戦争史に近いため、本研究の対象から除外した。また、『韓国戦争文学全集』も韓国戦争を背景としている作品だけを収録しているので、日本の戦争文学全集と直接比較研究するには無理があった。そこで『コ

レクシヨン『戦争×文学』の第1巻『朝鮮戦争』と比較することにより、本論文を仕上げたいと思う。

研究成果の公表について(予定も含む)

□ 頭表 (題名□表者名□議名□時□場所等)

□ 後日 韓の<□□文□全集>の比較研究

(張智映, 韓□日本□□, 2016.08.26, 嘉泉大□校)

論文 (題名□表者名□論文□載誌□載時期等)

□ 後日 韓の<□□文□全集>の比較研究

(張智映, 『日本學報』, 2017年末予定)

書籍 (題名□著者名□出版社□行時期等)